

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692600279		
法人名	医療法人 育成会		
事業所名	ぐるーぷほーむ 森の家(ユニット桜)		
所在地	京都府福知山市夜久野町直見4番地の7		
自己評価作成日	令和2年2月3日	評価結果市町村受理日	令和3年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2692600279-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2692600279-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町2-1		
訪問調査日	令和3年3月9日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節や天気によっては中庭を活用し、花や野菜を植え育てたり洗濯物を干したりと日光を浴びながら日常生活を過ごせるように努めています。自然豊かで、話題やレクリエーションの活動の中で利用者に四季を感じてもらえ季節の理解ができる環境を作っている。  
理事長が医師であり、医療との連携しやすく健康面に配慮ができる。管理栄養士を配置し、利用者の状態に合わせて食事が提供できるように努めている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

廃校になった市立小学校のグラウンド跡地に建てられた、自然豊かな山あいにある開設1年目の2ユニットのグループホームです。コロナ禍での開設で、地域密着型サービスのあるべき姿を実現しづらい環境下ではあるものの、施設駐車場を、魚屋やスーパーの移動販売に場所を提供することで、感染症対策に配慮しつつも地域の方との良好な関係作りになっています。また、開設当初に管理者が地域の方に向けて情報を発信した際に、「入居者と一緒にイチゴ大福を作りたい」と夢を語ったところ、収穫期に近所の方がイチゴを差し入れしてくれるといったエピソードもあります。食事のお米は地域の農家から、またパンも地域のパン屋から購入するなど、地域への貢献もしています。コロナ禍の影響で外出もままならないことから、入居者と一緒に事業所内で参拝ができるよう、大きな鳥居や賽銭箱を作ったり、節分の鬼退治ゲームを手作りするなど、入居者と職員と一緒に生活していることが窺われます。母体が医療法人で、理事長が医師であることから、健康管理には十分に配慮されており、サービス担当者会議にも理事長が積極的に参加することで、医療面にも配慮された計画づくりがなされています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の思いを聞きながら日常生活の中でできることを一緒にしていけるように努めている。	医療法人としての理念をもとに、施設(事業所)理念は、開設当初に職員と一緒に作成したものです。玄関先に掲示し、来訪者へ周知をしています。話し合いの場等で、管理者が折に触れ理念についての話をするようにしています。	理念に基づくケアの実践ができるよう、職員の理念への理解は大切な事です。理念をもとに指導や注意を行うことで、軸のブレない人材育成にもつながることから、朝礼時の唱和やユニット内への掲示も必要な事と考えます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、新型コロナウイルス感染拡大予防のために外部との接触をさせている。 施設内の駐車場を移動スーパー、魚の販売者に提供し、地域の方が集える場所としている。感染者数が減少していた時期は、利用者も一緒に買い物をしていました。	自治会への加入はしているものの、コロナ禍の影響により、自治会活動自体が滞っており、地域との関わりは限定的なものになっています。そんな中でも、魚屋やスーパーの移動販売を駐車場の一角で行っている事から、地域の方が買い物に来る機会になっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染拡大予防のために地域の方に対して講習会等は実施していない。 所属する地区の区長に広報紙を発行し暮らしの状況が理解してもらえるように対応している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大予防のため運営推進会議の開催はしていない。10月、1月に施設報告を文書で行い、各意見をサービスの提供に反映するようにしている。	コロナ禍の中で開設をしており、実質は本年度10月からの運営推進会議の開催を行っていますが、書面開催としています。運営推進委員会は、地域包括・役所職員・自治会長・家族等で構成されており、書面開催後には毎回意見をいただき、次回の会議及び運営に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者を運営推進会議の構成員として意見交換できるようにしている。また、メール等で情報交換している。	運営推進会議議事録は郵送しています。役所職員が運営推進委員会メンバーになっており、運営状況を把握したうえで、運営推進会議後の意見をもらえることから、良好な関係が築けていることが窺われます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修会を4月(入職時)と10月23日に実施。8月11日からベッド上臥床時にベッドから降りようとされる利用者1名について、危険回避のため柵を使用する身体拘束を実施。カンファレンスを開催し、工夫を重ねて11月10日最終評価を行い身体拘束を解除できた。	「身体的拘束適正化のための指針」及びマニュアルを整備し、職員への周知を行っています。委員会活動は、「ヒヤリハット・事故・身体拘束会議」の中に位置付け、3ヶ月毎に実施されています。また、入職時オリエンテーションと計画された研修が年2回実施され、特に不適切な声掛けの見直しに注力しています。職員個々の身体拘束についての理解度は、自己点検シートを活用し、年1回の確認を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修会を4月(入職時)と10月23日に実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	未実施。1名、成年後見人制度について入居前に市の担当者と調整の方向で話し合いをしたが、活用に至らず。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明と同意を得ている。10月1日付で契約書と重要事項説明書の変更に対し説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染者数が減少したときには、家族の方についての面会制限を緩和し、面会時に意見を聞き対応するよう努めていた。	コロナ禍の影響により、面会制限はしているものの、窓越しの面会は行っており、日用品の持参時などには意見を聴くようにしています。オンライン面会については入居者の特性に配慮して現在は実施していません。	開設1年目ということもあり、試行錯誤の連続であることは否めません。オンライン面会も入居者の特性によっては実現できる方もおられると思われます。また、面会時の聴き取り内容についても記録されていないことから、口頭での共有になっています。独自に家族アンケートを採り、忌憚のない意見を収集し、運営に活かすことが望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	7月に全体会議、11月に自己評価とともに要望、意見を確認し、対応している。	管理者は、日常的な職員との関わりから、意見や要望を聴き取るようにしています。また職員は年に一度、目標・要望などと、「管理者に望むこと」を提出し、管理者との面談を行っています。月2回のカンファレンス時にも意見が言える機会になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	頻回に施設に来所し、職員の様子を観察、声掛けをしている。職場環境を整備するために必要備品を購入し対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修が開催しやすいように業者を紹介し、研修につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設開所前に研修を兼ねて社会福祉法人に勤務できるように調整。現在、研修は老人保健施設と共同で定期的実施。開所前に2施設見学。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の訴えを傾聴しながらサービス・ケアに努めている。入居申し込み相談時に本人も含めて施設見学を勧めている。入居時には思いを傾聴し、関係づくりができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時の面接で訴えをなるべく傾聴しその後の対応の仕方を相談するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状況を確認し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理、洗濯干し等一緒に行えるように声掛け、実施を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の声や新型コロナウイルス感染拡大予防の中での面会制限中には家族と玄関でのガラス越しでの面会や電話で会話をしてもらえるように工夫している。新型コロナウイルス感染者数の減少がみられた時には家族の面会制限を緩和している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染拡大予防のために未実施。過去に住んでいた場所や勤務先、かわりを持った人の話をしたりしている。	コロナ禍の影響による外出自粛もあり、馴染みの場所や人との関係継続が難しい状況にあります。入居前からの趣味の継続として、貼り絵・裁縫・百人一首・囲碁将棋・そろばんなど、一人ひとりが楽しめるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂での席を検討したり、多人数でするレクリエーションや体操、誕生会や季節の行事は施設全体で行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	未実施。サービス終了しても相談事等あればと声掛けをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの意向や意向を表出できないかたについては声掛けをして表情で把握するように努めている。本人本位に検討することに難しさは感じている。	暮らしの中での希望する役割を募り、希望される家事・庭の草むしり・プランターでのトマト栽培・畑での芋栽培など、本人の希望する役割ができるよう支援しています。関わりの中で知り得た情報はケース記録に記載し、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設入居後に会話の中で本人の生活については把握。また、入居面接の時に家族からも聴取するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	医師(理事長)のアドバイスを受け、本人の心身の状況を把握しながら一日の過ごし方をケアできるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師(理事長)同席のもとカンファレンスの在り方を試行錯誤してケアについて検討し実施できるように努めている。	医師でもある理事長が参加し、月2回を目途にカンファレンスを開催し、一人ひとりの状態確認をしています。介護計画は短期目標の期間(概ね6か月)毎に見直しの必要性を検討し、必要に応じて見直しています。居室担当によるモニタリングも短期目標の期間に合わせて実施されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や24時間シートを活用し情報共有できるように努めているが、一人一人の介護計画の把握が不十分であると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応できるように努めるようにしているが、柔軟で多機能的な対応は不十分なものに思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容師に訪問にて散髪、地区の「みんなで千羽鶴大作戦」に参加。市の広報紙や学園だよりなど提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長がかかりつけ医として往診にて対応し、変化があった時には連絡、報告している。専門医の受診が必要な時には、専門病院へ受診ができるように調整している。	かかりつけ医は、入居時に運営主体である協力医療機関に変更をしてもらっています。専門医へは家族協力のもと、受診できるよう支援しています。往診は理事長でもある医師が週2回実施しており、状態の変化にも即対応できる環境になっています。現在のところ訪問歯科の対応はありません。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1名常勤で勤務。2名夜勤専従で勤務している。勤務外の利用者の状態変化時には、電話で報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者と情報交換を行って対応している。入院時には、介護サマリーを作成している。また、理事長が地域医療機関と信頼関係があり、対応はとてもスムーズに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した際は、家族と医師と施設職員と情報交換し、今後の対応を検討するように努めている。	「重度化した場合の対応に関する指針」「看取りに関する指針」を作成し、入居時に同意を得ています。また看取り期に入られた際には、医師(理事長)による説明と、意向の確認がされています。	開設間もないことから、看取り実績はありませんが、職員の経験やスキルの課題から、看取りを行える状況ではないとのこと。運営主体が医療法人である強みを活かして、看取りができる体制に向けて、技術面・精神面について計画的に研修をされてはいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置についての研修は、未実施。医師と看護師に連絡し対応している。血圧、体温、脈拍、SPO2の測定は毎日実践し、急変時には対応できるようにしている。急変時のマニュアル作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。避難場所については、隣接した敷地内にあります。	消防署協力のもとで、初期消火訓練と夜間想定での避難訓練を一部の入居者も協力して実施しています。市の一斉訓練はコロナ禍により中止になっています。非常災害時マニュアルを作成し、有事に迷わないよう判断をフロー化しています。非常用備蓄食として、20人分を3日間分備えています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、難しく感じています。声掛けの場所や声のトーン等の配慮するように努めている。接遇研修を4月(入職時)に実施。	今年度のプライバシー保護研修は、入職時オリエンテーション時と計画に基づく研修を実施しています。来年度も年2回の研修を実施する予定です。入浴時は原則として同性介助を行い、トイレ誘導時の声掛けや、居室での排泄介助時には、羞恥心に配慮したケアを心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	花を植える、散歩等の声掛けをして本人の希望で対応するように努めている。移動スーパーで買い物をしたり、誕生会のケーキ等を選択できるように工夫している。思いが表出できるように傾聴するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えるように努めているが、できていないことが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、髭剃り等声をかけ実施できるように努めている。衣類については、選択できるように声掛けできる時もあるが、職員で選択している場合もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を声掛け、見守り、支援しながら実施するように努めている。味見や食器洗い等一緒にできるように努めている。鍋やお好み焼き、たこ焼き等は食堂のテーブルで多数で一緒にできるように工夫している。	朝食は日替わりでのパン食。昼夕食は週毎にホームの管理栄養士が献立を考え、職員と入居者が一緒に調理をしています。週毎の献立の中に行事食も組み込み、季節行事や入居者の希望を聴きながら、鍋や鉄板料理、巻き寿司などを楽しんでいます。手作りおやつを作る機会も多く、入居者のできることを支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や体調、嚥下咀嚼能力に応じて食事形態を工夫している。管理栄養士配置して対応している。水分摂取も午前、午後の間に対応できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態、状況に応じて毎食後に声掛け、誘導、ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状況に応じてトイレ誘導、見守り、介助を行っている。	日課表で概ねのトイレ誘導のタイミングを共有し、適宜トイレの排泄ができるよう支援をしています。日中のおむつ使用はなく、夜間のみおむつ対応の方が1名います。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の体調に合わせて体操、水分摂取量の調整や内服により排便コントロールができるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めて対応している。声かけて、入浴を嫌がられた場合には、時間を変えたり、次の日に声掛けて対応している。安心して入浴ができるように利用者の状態に合わせてリフト浴の活用を行っている。	最低でも週2回の入浴ができるよう、月・木の入浴を基本に時間を決めず、入居者の体調や気分を見ながら適宜案内をしています。入浴を断られたときは、声掛けのタイミングや人を変えながら、曜日変更も臨機応変に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々に応じて対応している。夜間不眠が続く場合は日中の過ごし方や利用者の行動を観察し、対応するように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個々利用者の薬をいれているポーチに入れて作用について理解ができるようにしている。薬の変更があった時には連絡ノートに記入し、特に注意が必要な副作用についてはコメントを記入し把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じてできることを声掛けしながら過ごして頂けるように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、新型コロナウイルス感染拡大予防のために外出をしていない。感染者数が減少していた時には、個々の希望を聞きながら散歩、米精米や施設周囲の草引き等一緒に行っていた。	コロナ禍の中、外出自粛をしていますが、状況を見ながら、施設外周の散歩や外気浴を行っています。車で、近くの精米所へ行ったり、市の主催する公民館イベントに協力した際の千羽鶴の展示を見に行ったりしています。行事外出などは厳しい状況ですが、ドライブ外出も検討中です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族管理としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があった時に話ができるように対応している。年賀状を家族宛に書いていただき送付した。定期的に家族が手紙を書かれているかたもある。利用者間で手紙のやり取りをされる時は対応していた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に季節に合わせて壁面の飾りつけを行っている。	木造建築のため、湿度が一定に保たれていることや、定期的に換気を行うことが、感染症対策にも作用しています。職員と入居者が一緒に作成した季節毎の作品や、入居者の趣味で作った大きな貼り絵などを華美になり過ぎないように配慮しながら飾り付けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる空間を居間に作っている。また、食堂の席は、気の合った利用者同士で過ごせるように工夫、また、状況に合わせてテーブルの配置を工夫するように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていたタンスやテレビ等を持参されて工夫が来ている利用者もある。衣類やコントローラーなどは使いやすいようにまた安心できるように配置されている利用者については位置を妨げないようにしている。	コロナ禍の真ただ中での開設であり、入居前の自宅訪問等もままならない中で、家族協力を得ながら、馴染みの家具や写真を持ち込んでもらっています。入居前から独居だった方も多く、コロナの状況を見ながら、安全に配慮し、個性的な設えになるよう工夫していく予定です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室に手すりを設置している。トイレはわかりやすいように表示している。歩行車、歩行器、車いす等使用されている場合は、食堂、居室内での設置場所を定着させて利用しやすいように努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2692600279		
法人名	医療法人 育成会		
事業所名	ぐるーぷほーむ 森の家(ユニット桃)		
所在地	京都府福知山市夜久野町直見4番地の7		
自己評価作成日	令和2年2月3日	評価結果市町村受理日	令和3年4月12日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

季節や天気によっては中庭を活用し、花や野菜を植えてたり洗濯物を干したりと日光を浴びながら日常生活を過ごせるように努めています。自然豊かで、話題やレクリエーションの活動の中で利用者に四季を感じてもらえ季節の理解ができる環境を作っている。理事長が医師であり、医療との連携しやすく健康面に配慮ができる。管理栄養士を配置し、利用者の状態に合わせて食事が提供できるように努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ligvsysnoCd=2692600279-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ligvsysnoCd=2692600279-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ユニット桜と同じ

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	令和3年3月9日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の思いを聞きながら日常生活の中でできることを一緒にしていけるように努めている。	ユニット桃に同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、新型コロナウイルス感染拡大予防のために外部との接触をさせている。 施設内の駐車場を移動スーパー、魚の販売者に提供し、地域の方が集える場所としている。感染者数が減少していた時期は、利用者も一緒に買い物をしていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染拡大予防のために地域の方に対して講習会等は実施していない。 所属する地区の区長に広報紙を発行し暮らしの状況が理解してもらえるように対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大予防のため運営推進会議の開催はしていない。10月、1月に施設報告を文書で行い、各意見をサービスの提供に反映するようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者を運営推進会議の構成員として意見交換できるようにしている。また、メール等で情報交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修会を4月(入職時)と10月23日に実施。8月11日からベッド上臥床時にベッドから降りようとされる利用者1名について、危険回避のため柵を使用する身体拘束を実施。カンファレンスを開催し、工夫を重ねて11月10日最終評価を行い身体拘束を解除できた。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修会を4月(入職時)と10月23日に実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	未実施。1名、成年後見人制度について入居前に市の担当者と調整の方向で話し合いをしたが、活用に至らず。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明と同意を得ている。10月1日付で契約書と重要事項説明書の変更に対し説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染者数が減少したときには、家族の方についての面会制限を緩和し、面会時に意見を聞き対応するよう努めていた。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	7月に全体会議、11月に自己評価とともに要望、意見を確認し、対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	頻回に施設に来所し、職員の様子を観察、声掛けをしている。職場環境を整備するために必要備品を購入し対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修が開催しやすいように業者を紹介し、研修につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設開所前に研修を兼ねて社会福祉法人に勤務できるように調整。現在、研修は老人保健施設と共同で定期的実施。開所前に2施設見学。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の訴えを傾聴しながらサービス・ケアに努めている。入居申し込み相談時に本人も含めて施設見学を勧めている。入居時には思いを傾聴し、関係づくりができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時の面接で訴えをなるべく傾聴しその後の対応の仕方を相談するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状況を確認し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理、洗濯干し等一緒に行えるように声掛け、実施を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の声や新型コロナウイルス感染拡大予防の中での面会制限中には家族と玄関でのガラス越しでの面会や電話で会話をしてもらえるように工夫している。新型コロナウイルス感染者数の減少がみられた時には家族の面会制限を緩和している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染拡大予防のために未実施。過去に住んでいた場所や勤務先、かかわりを持った人の話をしたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂での席を検討したり、多人数でするレクリエーションや体操、誕生会や季節の行事は施設全体で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	未実施。サービス終了しても相談事等あればと声掛けをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの意向や意向を表出できないかたについては声掛けをして表情で把握するように努めている。本人本位に検討することに難しさは感じている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設入居後に会話の中で本人の生活については把握。また、入居面接の時に家族からも聴取するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	医師(理事長)のアドバイスを受け、本人の心身の状況を把握しながら一日の過ごし方をケアできるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師(理事長)同席のもとカンファレンスの在り方を試行錯誤してケアについて検討し実施できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や24時間シートを活用し情報共有できるように努めているが、一人一人の介護計画の把握が不十分であると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応できるように努めるようにしているが、柔軟で多機能的な対応は不十分なもの思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容師に訪問にて散髪、地区の「みんなで千羽鶴大作戦」に参加。市の広報紙や学園だよりなど提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長がかかりつけ医として往診にて対応し、変化があった時には連絡、報告している。専門医の受診が必要な時には、専門病院へ受診ができるように調整している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1名常勤で勤務。2名夜勤専従で勤務している。勤務外の利用者の状態変化時には、電話で報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者と情報交換を行って対応している。入院時には、介護サマリーを作成している。また、理事長が地域医療機関と信頼関係があり、対応はとてもスムーズに行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した際は、家族と医師と施設職員と情報交換し、今後の対応を検討するように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置についての研修は、未実施。医師と看護師に連絡し対応している。血圧、体温、脈拍、SPO2の測定は毎日実践し、急変時には対応できるようにしている。急変時のマニュアル作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。避難場所については、隣接した敷地内にあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけについては、難しく感じています。声掛けの場所や声のトーン等の配慮するように努めている。接遇研修を4月(入職時)に実施。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	花を植える、散歩等の声掛けをして本人の希望で対応するように努めている。移動スーパーで買い物をしたり、誕生会のケーキ等を選択できるように工夫している。思いが表出できるように傾聴するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えるように努めているが、できていないことが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、髭剃り等声をかけ実施できるように努めている。衣類については、選択できるように声掛けできる時もあるが、職員で選択している場合もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を声掛け、見守り、支援しながら実施するように努めている。味見や食器洗い等一緒にできるように努めている。鍋やお好み焼き、たこ焼き等は食堂のテーブルで多数で一緒にできるように工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や体調、嚥下咀嚼能力に応じて食事形態を工夫している。管理栄養士配置して対応している。水分摂取も午前、午後の間に対応できるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態、状況に応じて毎食後に声掛け、誘導、ケアを実施している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状況に応じてトイレ誘導、見守り、介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の体調に合わせて体操、水分摂取量の調整や内服により排便コントロールができるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めて対応している。声かけて、入浴を嫌がられた場合には、時間を変えたり、次の日に声掛けて対応している。安心して入浴ができるように利用者の状態に合わせてリフト浴の活用を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々に応じて対応している。夜間不眠が続く場合は日中の過ごし方や利用者の行動を観察し、対応するように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個々利用者の薬をいれているポーチに入れて作用について理解ができるようにしている。薬の変更があった時には連絡ノートに記入し、特に注意が必要な副作用についてはコメントを記入し把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じてできることを声掛けしながら過ごして頂けるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、新型コロナウイルス感染拡大予防のために外出をしていない。感染者数が減少していた時には、個々の希望を聞きながら散歩、米精米や施設周囲の草引き等一緒に行っていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族管理としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があった時に話ができるように対応している。年賀状を家族宛に書いていただき送付した。定期的に家族が手紙を書かれているかもある。利用者間で手紙のやり取りをされる時は対応していた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に季節に合わせて壁面の飾りつけを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる空間を居間に作っている。また、食堂の席は、気の合った利用者同士で過ごせるように工夫、また、状況に合わせてテーブルの配置を工夫するように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていたタンスやテレビ等を持参されて工夫が出来る利用者もある。衣類やコントローラーなどは使いやすいようにまた安心できるように配置されている利用者については位置を妨げないようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室に手すりを設置している。トイレはわかりやすいように表示している。歩行車、歩行器、車いす等使用されている場合は、食堂、居室内での設置場所を定着させて利用しやすいように努めている。		